

上の浦遺跡

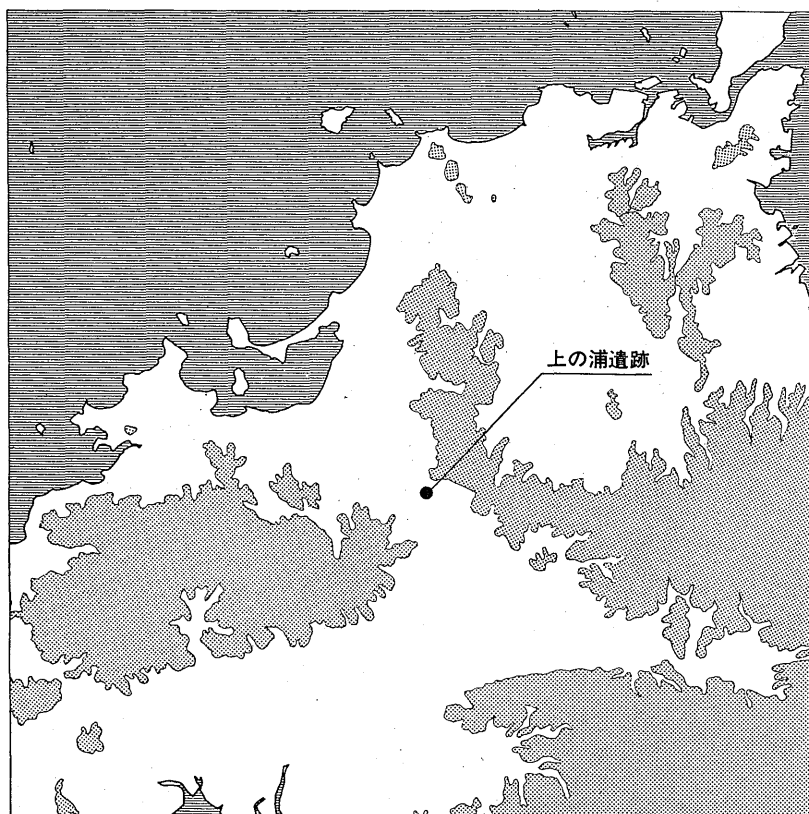
筑紫野市文化財調査報告書

第 14 集

1986

筑紫野市教育委員会

かみ 上の浦遺跡



序

筑紫野市は、昭和47年4月の市制施行以来、福岡都市圏のベッドタウンとして人口が急増しております。したがって宅地開発も多く、これに伴う埋蔵文化財発掘調査も後を絶ちません。

この「上の浦遺跡」もそのひとつで、やむなく発掘調査終了後造成されてしまいました。私どもは先人から受けついだ文化財の保護に、より一層の努力をいたしますと伴に、これら発掘調査の成果につきましては、広く市民のみなさまの学習に供したいと考えております。本書が郷土の歴史を知る一助ともなれば幸いに存じます。

最後に今回発掘調査に従事されました方々と、絶えず協力を賜りました各方面には厚く御礼申し上げる次第でございます。

昭和 61 年 3 月 31 日

筑紫野市教育委員会

教育長 松田 康男

例 言

1. 本書は福岡県筑紫野市大字牛島 464 番地の
6 外 400 m² の埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
である。
2. 調査は筑紫野市教育委員会が昭和60年度国
庫補助を受け実施した。
3. 実測および写真撮影は奥村俊久が当たり、
製図は鶴味加代子が行なった。
4. 本書の執筆・編集は奥村が行なった。

目 次

	頁
I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	1
III 調査の内容	5
1 調査概要	5
2 上の浦第 1 号墳の調査	6
3 周溝墓の調査	7
4 その他の遺構・遺物	9
IV ま と め	10

挿 図 目 次

	頁
第 1 図 上の浦遺跡周辺の遺跡分布図	2
第 2 図 上の浦遺跡周辺地形図	4
第 3 図 遺構配置図	5
第 4 図 上の浦第 1 号墳実測図	折り込み
第 5 図 上の浦第 1 号墳出土土器実測図	7
第 6 図 周溝墓実測図	8
第 7 図 周溝墓出土土器実測図	9
第 8 図 1 号土壇実測図	9
第 9 図 土鍋実測図	10

I 調査に至る経過

筑紫野市開発事業事前審査会において、二日市興産株式会社より筑紫野市大字牛島 467—5 外 41 筆、5,156.7㎡の審査が行なわれた。予定地の一部は上の浦遺跡、上の浦古墳群として周知の遺跡となっている所であり、まず試掘調査を二日市興産株式会社の負担により実施した。その結果、表土下約30cmで遺構を検出し、上の浦第1号墳、同第2号墳が開発予定地内に所在する事が明らかとなった。その後、たび重なる協議の結果、昭和60年度国庫補助事業として発掘調査を実施する事となった。

調査組織については下記のとおりである。

総 括	筑紫野市教育委員会	教 育 長	松田 康男
庶 務	筑紫野市教育委員会	社会教育課課長	山村 茂
		文化財係 係長	高原 健
調 査	筑紫野市教育委員会 社会教育課	文化財係 主事	奥村 俊久

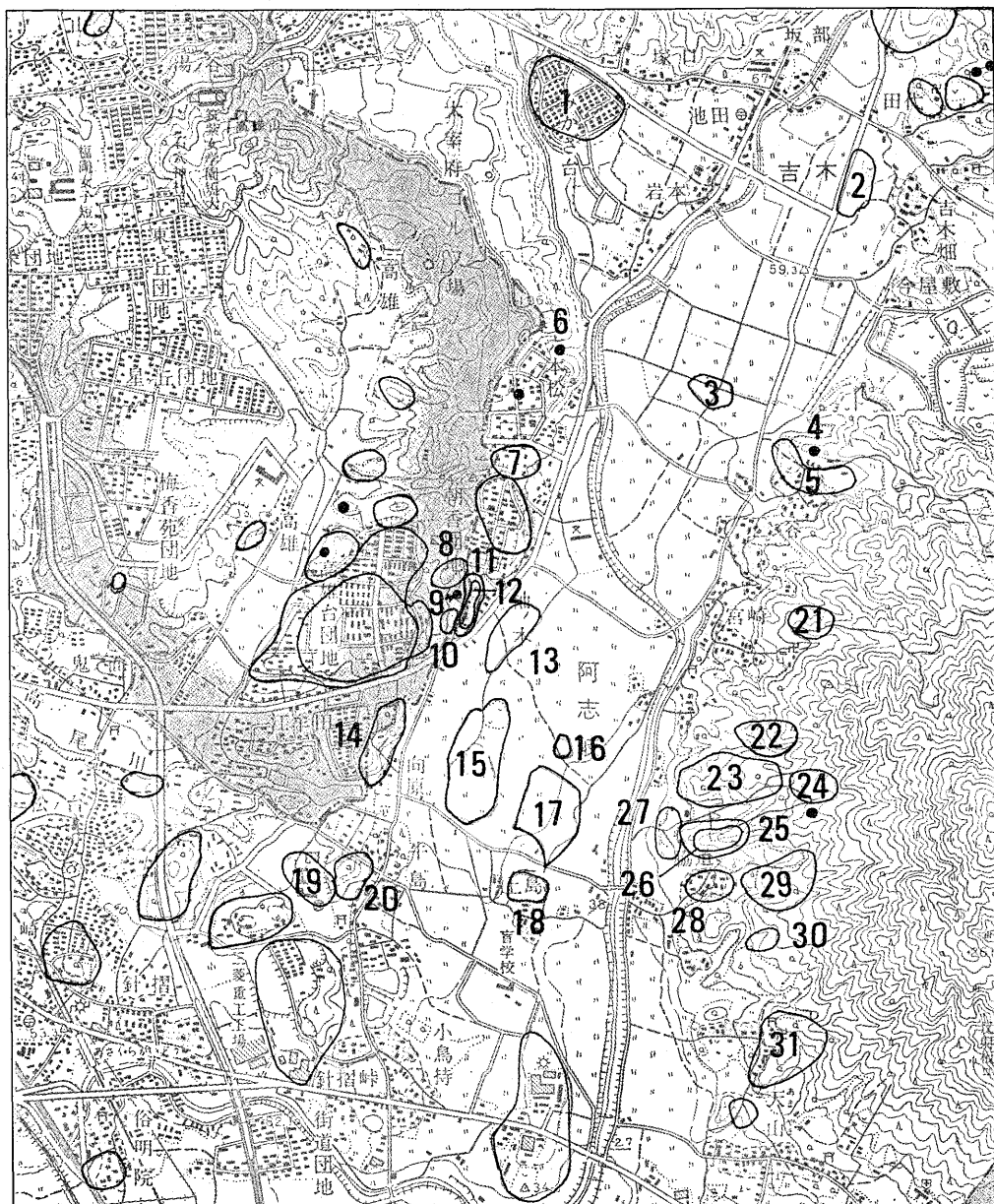
なお調査中、県立九州歴史資料館学芸二課技術主査 横田義章氏に御助言をいただくと共に、同主任技師 石丸洋氏に朱塗り部分の写真を撮影していただいた。ここに記して感謝する次第である。また報告書作成にあたり、長野智恵子、山本由紀子の協力を得た。

II 位置と環境

本遺跡は筑紫野市大字牛島（字塔の尾）に所在する。

市の東部には筑後川の支流である宝満川が流れる。宝満川は三郡山に源を発し、その東麓を回り込むようにして山間をぬけた後、兩岸に肥沃な沖積地を形成する。この上流域西側にある丘陵東面には、北から塚口古墳群、六本松古墳群、吉ヶ浦古墳群、上の浦古墳群といった古墳群があり、対面する宮地岳西麓にも、北から杉塚古墳群、阿志岐古墳群、天山古墳群が狭い地域に密集している。これまで横穴式石室をもつ杉の谷古墳群 1～3 号墳^{註1}、竪穴系横口式石室をもつ阿志岐古墳群 A 群 3 号墳^{註2}、割竹形木棺と推定される内部主体をもつ阿志岐古墳群 B 群 22～26 号墳^{註3}が発掘調査されている。塚口古墳群も発掘調査されているが、これまでは比較的宮地岳山麓の発掘調査が多かった。また宝満川兩岸の平野部は圃場整備事業に伴う発掘調査で古墳時代の住居跡も発掘されている。

今回の調査地点は標高58～59mに位置し、遠く耳納の山々も望むことができる好地である。



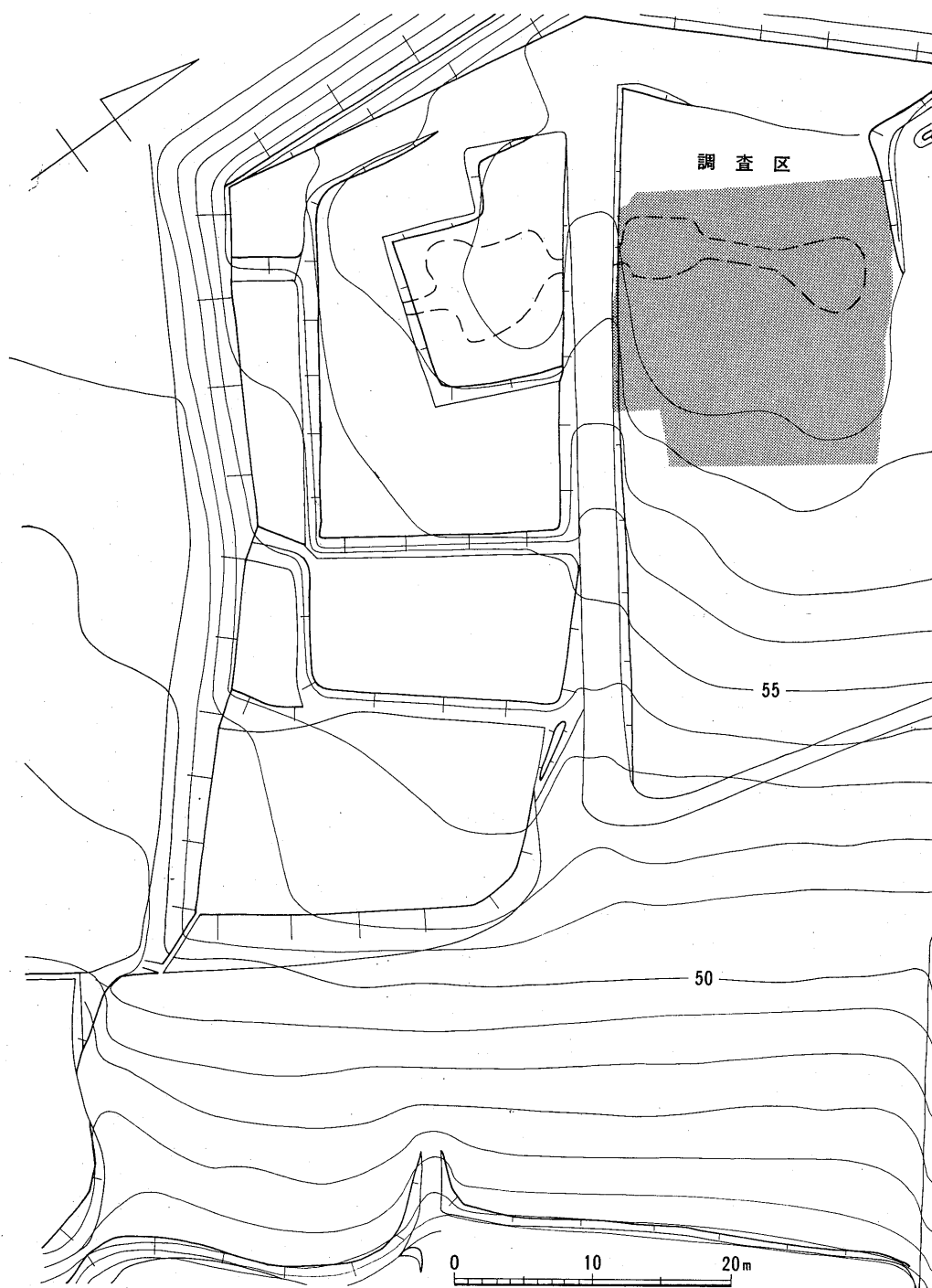
第1図 上の浦遺跡周辺遺跡分布図(縮尺1/25,000)

註

- 註1 「杉の谷古墳群・カケ塚古墳埋蔵文化財調査報告書」筑紫野市文化財調査報告書 第2・3集
1979 筑紫野市教育委員会
- 註2 「阿志岐シメノグチ遺跡」筑紫野市文化財調査報告書 第1集 1972 筑紫野市教育委員会
- 註3 「阿志岐古墳群」筑紫野市文化財調査報告書 第7集 1982 筑紫野市教育委員会
「阿志岐古墳群Ⅱ」筑紫野市文化財調査報告書 第12集 1985 筑紫野市教育委員会

第1図 分布図遺跡名

- 1.塚口古墳群 2.御笠地区遺跡A地区 3.御笠地区遺跡B地区 4.尺が浦古墳 5.尺が浦遺跡
6.六本松古墳 7.六本松遺跡 8.吉ヶ浦遺跡B遺跡 9.吉ヶ浦4号墳 10.吉ヶ浦遺跡C遺跡
11.袖の木遺跡 12.袖の木古墳 13.御笠地区遺跡C地区 14.高雄遺跡 16.御笠地区遺跡D地区
17.御笠地区遺跡F地区 18.御笠地区遺跡G地区 19.上の浦遺跡 20.上の浦古墳群 21.杉の谷
古墳群 22.阿志岐古墳群D群 23.阿志岐古墳群B群 24.阿志岐古墳群C群 25.阿志岐古墳群
A群 26.阿志岐シメノグチ遺跡 27.宮崎遺跡 28.脇道遺跡 29.脇道古墳群 30.老松神社古墳群
31.天山古墳群

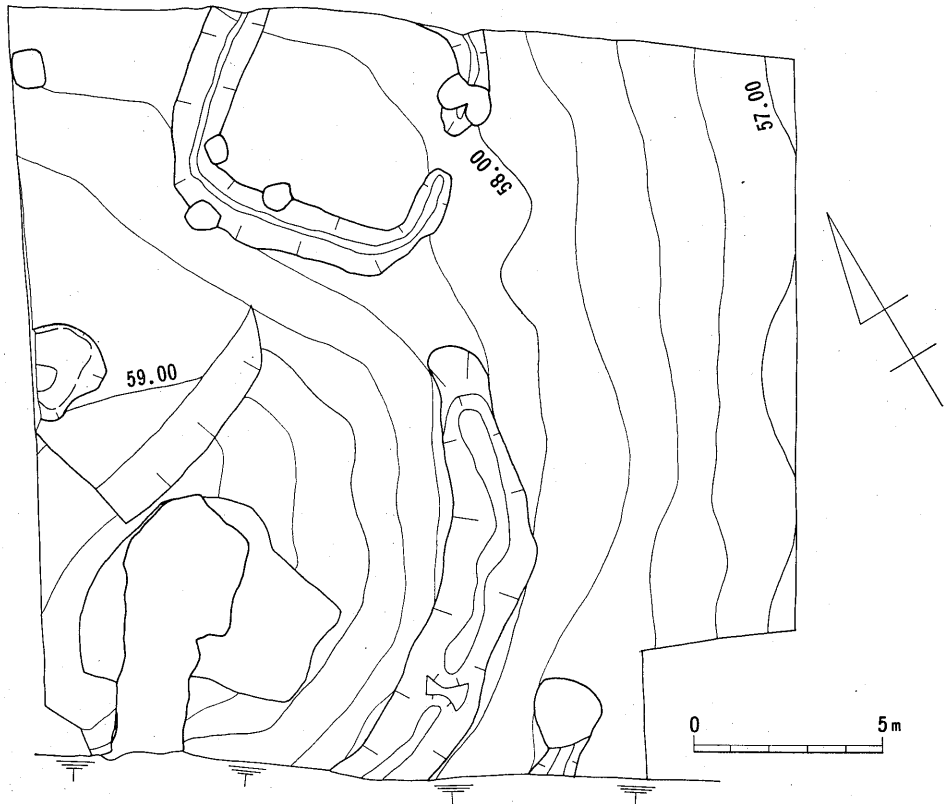


第2図 遺跡周辺地図(縮尺1/500)

Ⅲ 調査の内容

1 調査の概要

今回の発掘調査の原因となった開発面積は5,156.7㎡であるが、南半はかなり以前から造成されており、また現地の踏査や試掘調査の結果から、開発地域の北部を調査した。調査区域内では脇田1～3号墳が知られていたが、発掘調査の結果1号墳は横穴式石室を内部主体とする円墳であり、2号墳は比較的新しい時代の周溝墓、3号墳は遺構でない事が明らかとなった。その外には土壌が2基検出されたにとどまる。遺構はいずれも丘陵の頂部に近い位置に多く、平野部側の斜面の方は少ない。



第3図 遺構配置図(縮尺1/200)

2 上の浦第1号墳の調査

墳 丘

墳丘は破壊が著しく、規模や形状は明瞭さを欠くが、石室の東側で周溝が確認された。石室中央から周溝端部まで8.5mを測り、直径17mほどの円墳と想定される。墳丘の破壊は東側が著しく、この方向を中心に石材が取られたもののようである。また羨道部断面の観察から、この方向からも盗掘があった事が伺える。

石 室

石室は主軸をN-44.5°-Eにとり、南西に開口する単室の両袖横穴式石室である。石材の大半は抜き取られ、右袖石と玄室左壁腰石、および羨道部の石材の一部、敷石の前半部が残るのみである。石材はいずれも花崗岩である。

玄室は全長2.6m、幅2.1m程度と推定され、左壁体はやや大ぶりの石材を2石配し腰石とする。袖石は方柱状の石材を据えている。袖石、腰石の玄室側の面には朱が部分的に残っており、よく観察すると面全体に点々と極く僅かであるが確認され、本来は全面に朱が塗られていたものと思われる。玄門部は左袖石と梱石の抜き跡が観察され、玄門部の幅は約75cmであったと思われる。墓道はゆるやかに南側（平野部側）にカーブを描いているが、梱石より6mほどの所で切り通しの道により切られ、全様は不明である。

出土遺物

遺物は提瓶（7）が右袖石の玄室側に置かれていたほか原位置を保っていたものはない。その他の土器は石室内および羨道部の包土からの出土が中心である。ほかに管玉と鉄鏃茎部片が床面から出土したが、原位置を保つものではない。

須 恵 器

坏蓋 1は口径13.6cm、器高約3cmを測る。全体に箱形に近い形を呈す。平坦な天井部から凹線を境にして体部へ至る。体部は短かく、やや張り気味で、僅かに外反する口縁に至る。口縁部内面は内傾し、沈線状の段をもつ。回転ヘラ削りは天井部一坏に凹線部まで施される。2は口縁部の小片で、ゆるやかに下る体部から直立する口縁部に至る。口縁部は内面が僅かに内傾気味で、端部は丸く収まる。3は口径9.8cm、器高約2.7cmを測る。内面にはかえりがつく。天井部からゆるやかなカーブを描き体部へ至り、口縁部は横方向へ引き出される。かえりは下方へ延びる。回転ヘラ削りは外面全体の3/4に及び、比較的丁寧な作りである。

坏身 4は口径11.2cm、受部径13.6cm、器高4.1cmを測る。立ち上りは直線的に内傾して延び、端部は尖り気味に収まる。受け部は若干上方に引き出される。体部は比較的直線的に下り、丸味をもつ底部に至る。回転ヘラ削りは受け部以下の約1/2に及ぶ。5は口径10.6cm、受け部径12.8cmを測る。立ち上りは内傾し、中ほどから屈曲して上方に延び、端部は丸く収まる。

60,500

60,500

60,500

0 1 2 3 4 m

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 暗黄褐色土層 | 13 黒褐色土層 |
| 2 淡赤褐色土層 | 14 淡褐色土層（赤褐色土の砂粒を多く混入） |
| 3 淡赤褐色土層（2よりややにごる） | 15 赤褐色土層（黒色土のブロックを混入） |
| 4 赤褐色土層 | 16 黒色土+赤褐色土層 |
| 5 赤褐色土層 | 17 黒色土層 |
| 6 赤褐色土層 | 18 黒色土層（17より淡い） |
| 7 暗茶褐色ブロック | 19 暗褐色土層 |
| 8 黄褐色土層 | 20 暗褐色土層（19より淡い） |
| 9 黄褐色土層 | 21 暗褐色土層（赤褐色土を含む） |
| 10 淡褐色土層 | 22 黄褐色土層 |
| 11 淡褐色土層 | 23 暗黒褐色土層 |
| 12 黒色土層（17より褐色味を帯びる） | |

第4図 上の浦第1号墳石室・墳丘断面実測図（縮尺1/60）

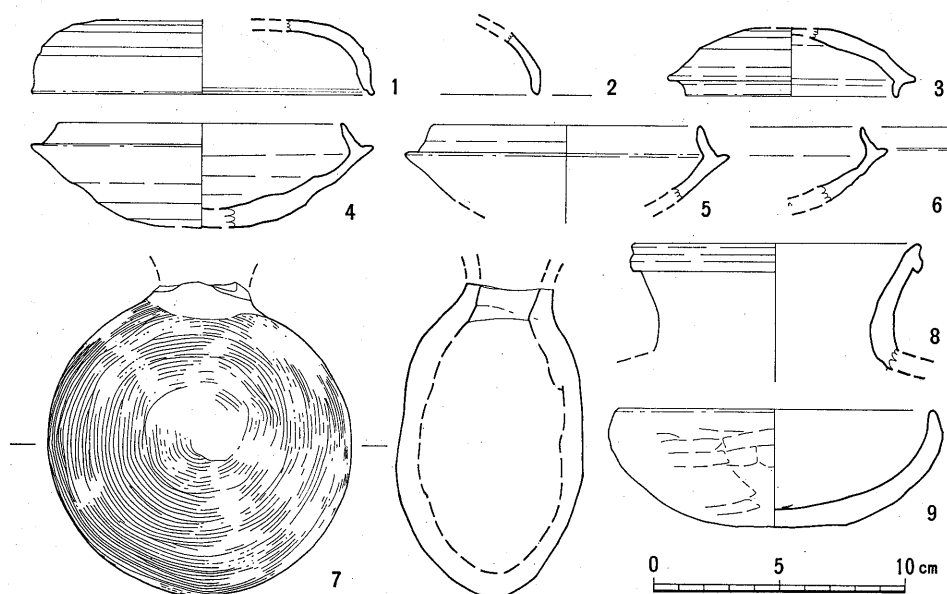
受け部はやや上方に引き出される。6は小片である。立ち上りは外反気味に内傾し、口縁部近くで上方に延びる。受け部はやや上方に引き出される。

提瓶 7は口頸部を欠失するが、体部は完全な形で残っていた。体部は径12cm程度で、厚さ7.3cmを測る。耳は貼付されていない。調整はカキ目調整される。

甕 8は口頸部で口径11.6cmを測る。

土 師 器

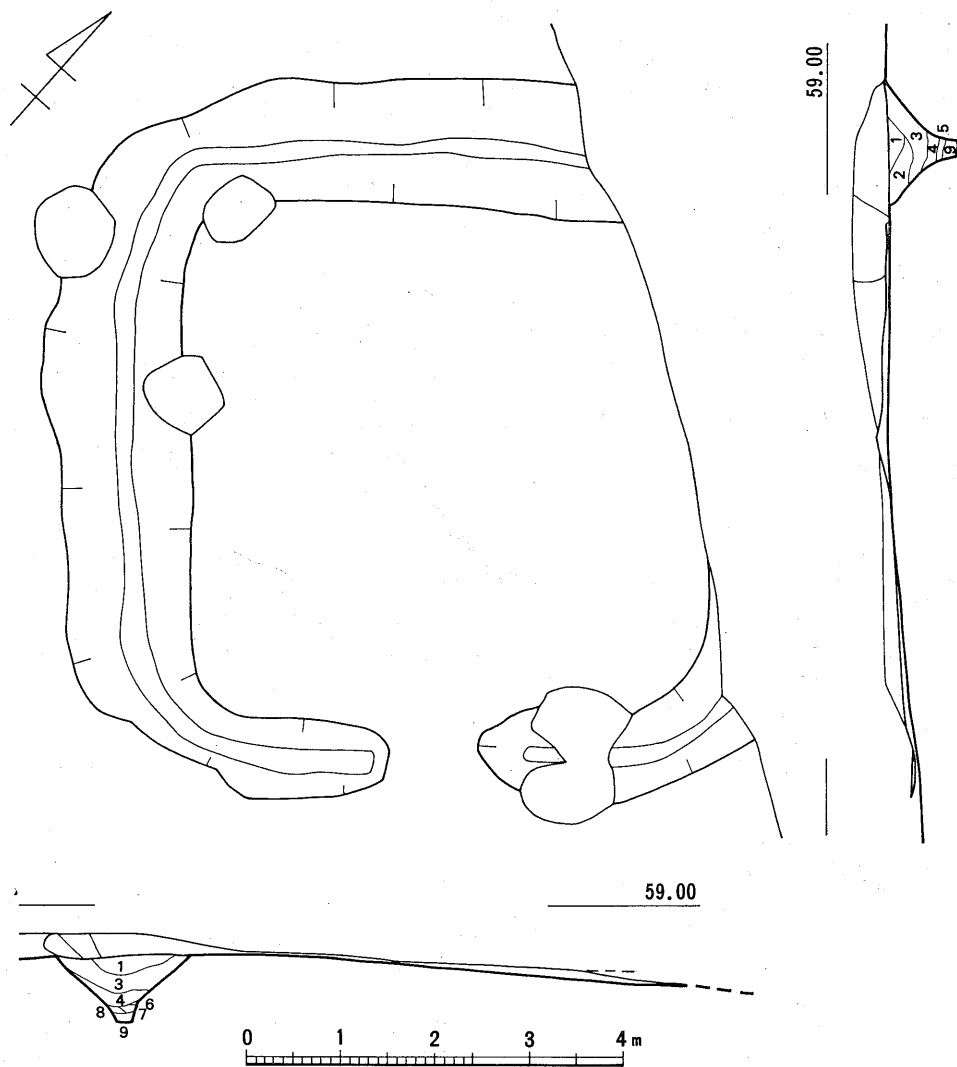
椀 9は口径12.8cm、器高4.7cmを測る。器肉は厚い。口縁部は内彎し、体部から底部にかけてゆるやかなカーブを描く。口頸部はヨコナデされ、外面口縁下1cmの位置以下は手持ちのヘラ削りが施され、内面口縁下1.5cm下はナデ調整される。



第5図 上の浦第1号墳出土土器実測図（縮尺1/3）

3 周溝墓の調査

脇田第1号墳の脇で検出されたもので、周溝の所々を近世墓に切られる。周溝墓の北側の一部は開発地外となっているが、概ね一辺7.7mの正方形を呈すと思われる。S-42°-Eに陸橋をもつ。内部主体はすでに失われている。

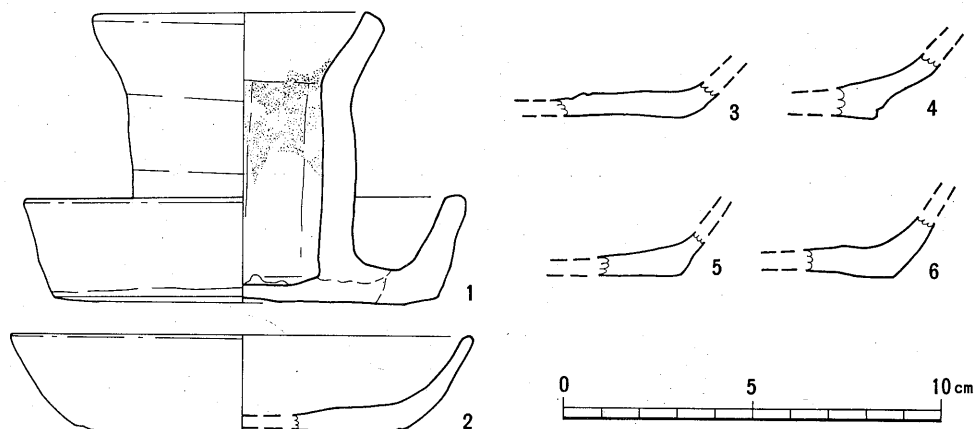


第6図 周溝墓実測図(縮尺 1/80)

出土遺物 周溝の西隅より北側にかけたの第1層から土師器が出土した。

1は燈明用のもので、ほぼ完形である。坏に筒状のものを付けたものである。坏部は口径11.7cm、底径10.2cm、器高3.9cmを測る。底部は糸切り離した後、回転ヘラ削りが施され、体部から内面にかけてヨコナデされる。体部はやや肉厚で、外傾して立つ。筒部は基部で径5.8cmを測るが、基部から $\frac{2}{3}$ ほどの所で外傾し、口径7.7cmを測る。口縁部は断面「コ」字状を呈す。筒部外面はキメの細かい刷毛状工具で横方向に調整され、口縁部から内面屈曲部まではヨコナデ、以下はヘラ状工具で調整される。筒部内面中位を中心にススが付着する。2～6はいずれも坏の小片である。2は口径12.2cm、底径8.8cm、器高2.6cmと推定されるが、小片から

の復原であり、やや数値が前後するかもしれない。口縁部から体部上半にかけて直線的に外傾し、体部下半はゆるやかなカーブを描き底部に至る。口縁部から体部にかけてはヨコナデされ、底部は糸切り離しである。3～6も底部の破片でいずれも糸切り離しである。4も下半の一部しか残っていないが、体部が大きく開く形態をとるものであろうか。



第7図 周溝墓出土土器実測図(縮尺 1/2)

4 その他の遺構・遺物

1 1号土壇

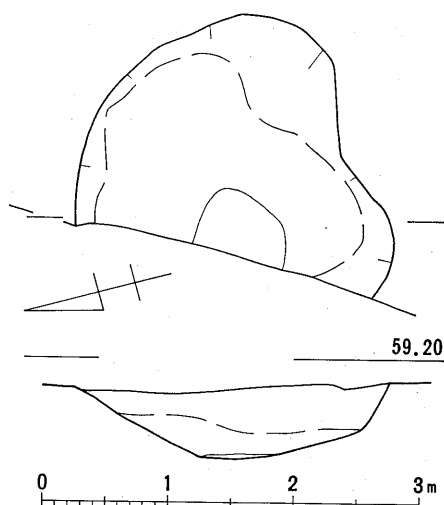
石室の左後方より検出されたものである。さらに調査地域外へ延びる。1号墳の周溝の可能性も否定できない。

2 2号土壇

1号墳周溝の東脇で検出されたものである。木根によりかなり破壊され、明瞭な形状をとどめない。

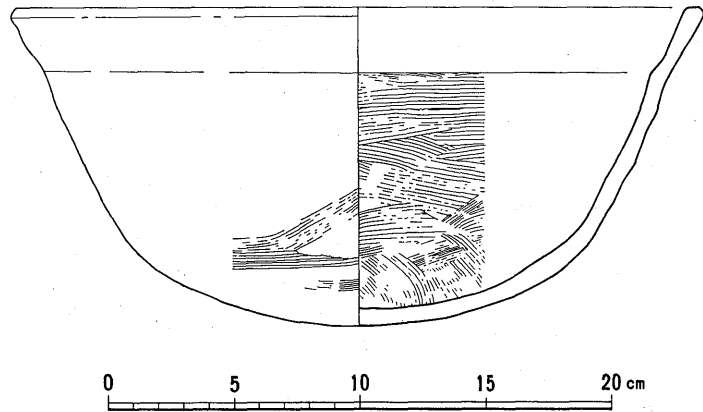
3 土鍋

調査区北隅より出土したものである。口径27.4cm、器高12.7cmを測る。端部は平坦をなし、体部上位で僅かに開く。体部は直線的に内傾して下り、丸底の底部へ至る。口縁部内面は



第8図 1号土壇実測図(縮尺 1/60)

内彎する。口縁部周辺から外面下位まではヨコナデされ、他の部分は刷毛目で仕上げられる。胎土は1~2mm大の砂粒をやや多く含むが、総じて良好な胎土で、焼成もほぼ良好である。



第9図 土鍋実測図(縮尺1/3)

IV ま と め

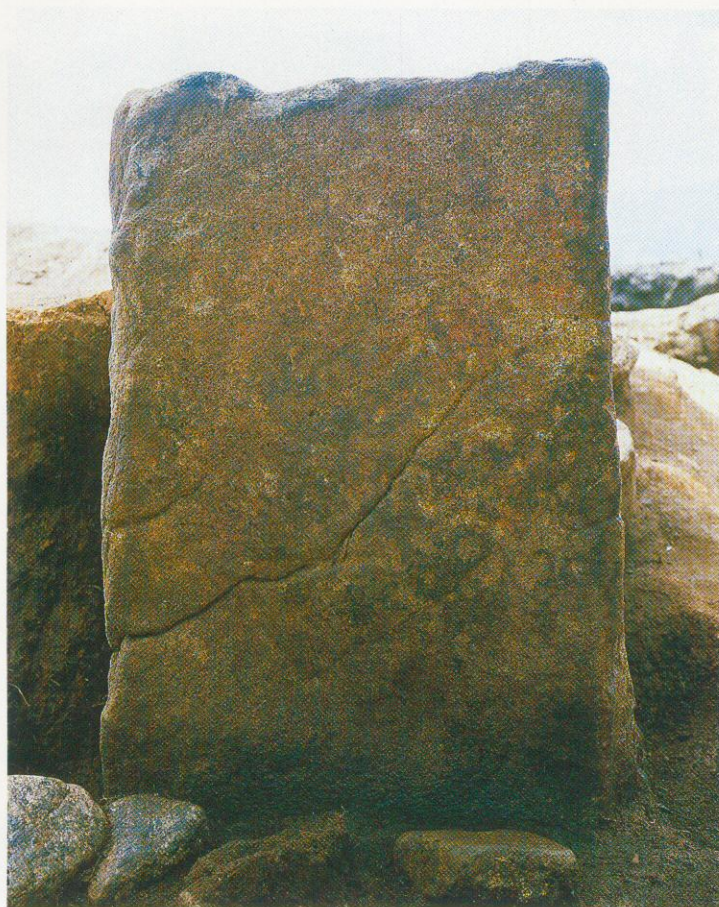
今回の調査は上の浦古墳群第1~第3号墳の調査が主体となったが、前述のとおり第2号墳は周溝墓であった。また第3号墳は南脇まで造成が行なわれており、その土がたまったもので古墳ではない。

1号墳は大破しているが、単室の横穴式石室をもつ円墳で、墳丘の規模は17mほどと思われる。玄室は全長2.6m、幅2.1mほどと推定され、壁面は朱で彩色される。出土の須恵器は僅かで少片ばかりであるが、1がⅡ様式、2はⅢb~Ⅳ様式、3はⅣ様式に、また坏身もⅣ様式に比定されよう。

周溝墓は東側に陸橋をもつ一辺7.7mほどの方形を呈すものである。内部主体は不明である。

時期は周溝から出土した坏や燈明皿を手掛りとするしかないが、燈明皿以外は小片であり、明確にしがたい。燈明皿についても類例に乏しいが、概ね中世末から近世初頭の頃のものではなかろうか。

版 圖



右袖石



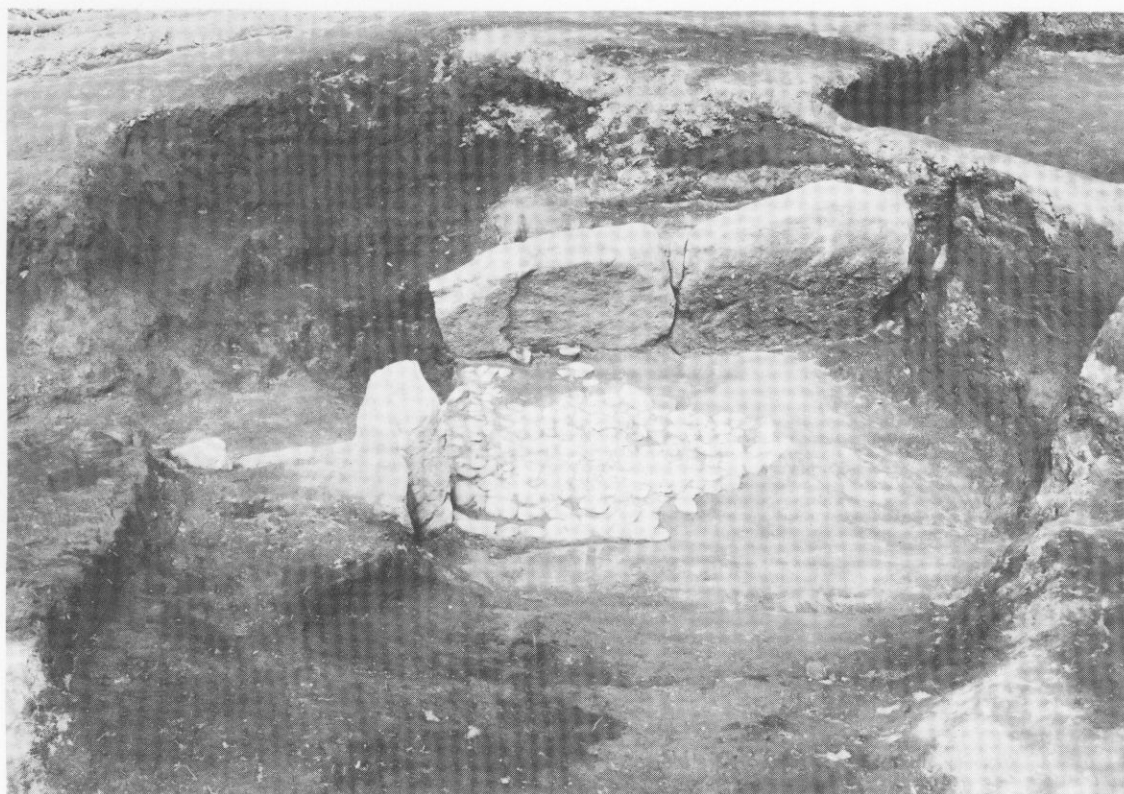
遺跡遠景（東より）



遺跡遠景（南より）



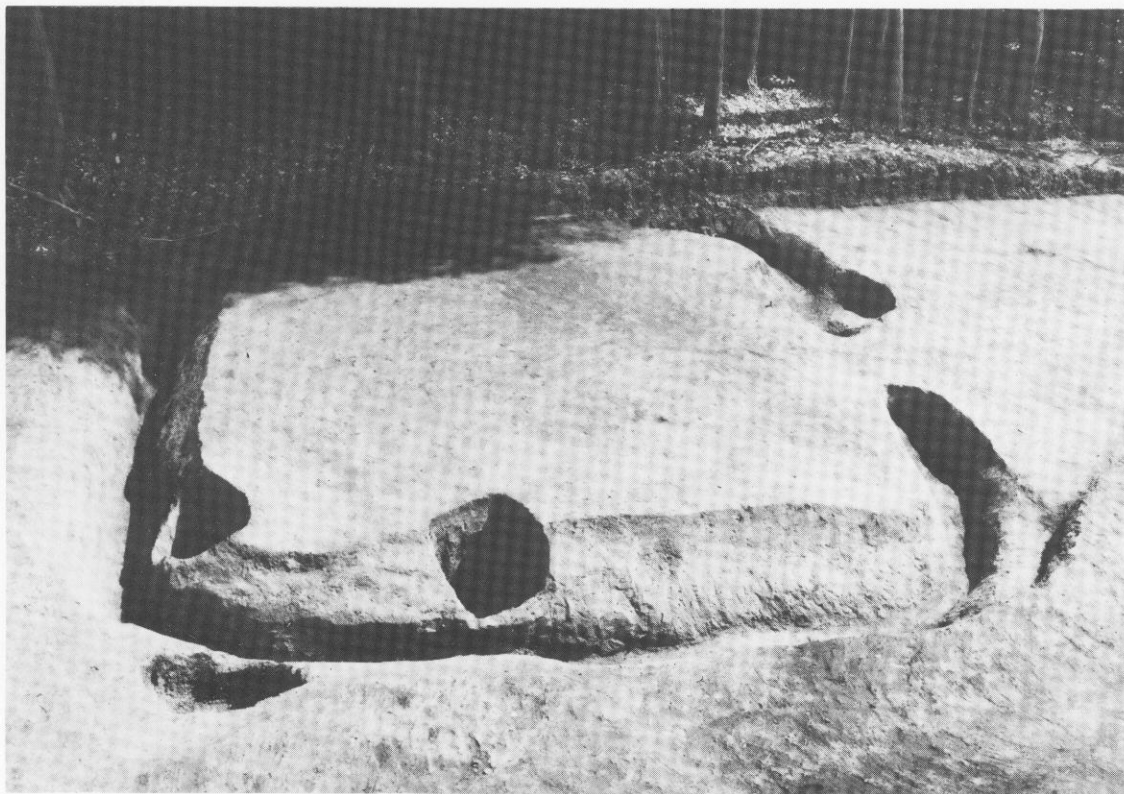
上の浦第1号墳（西より）



上の浦第1号墳石室（東より）



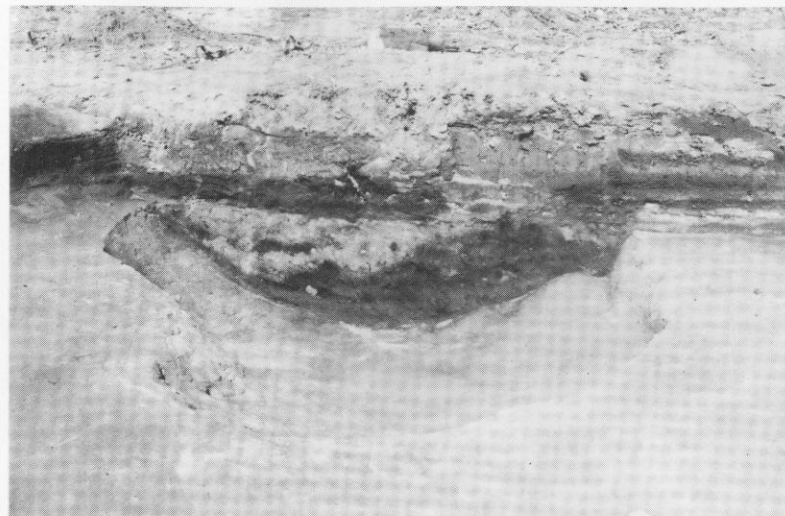
周溝墓（東より）



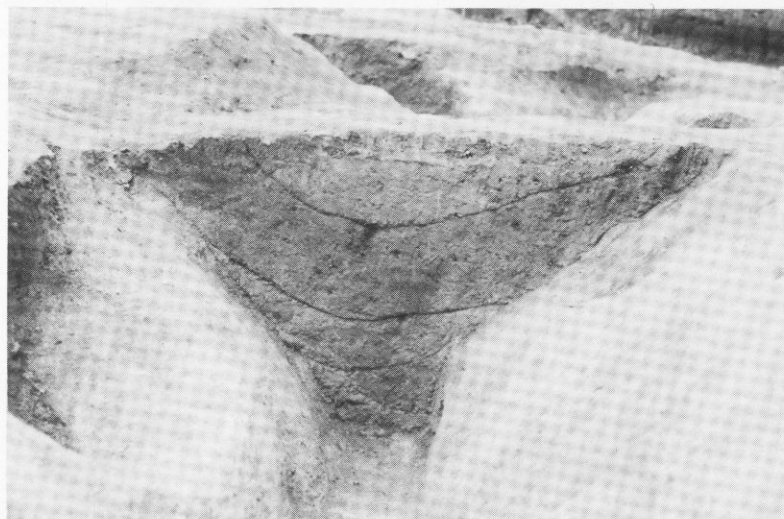
周溝墓（南より）



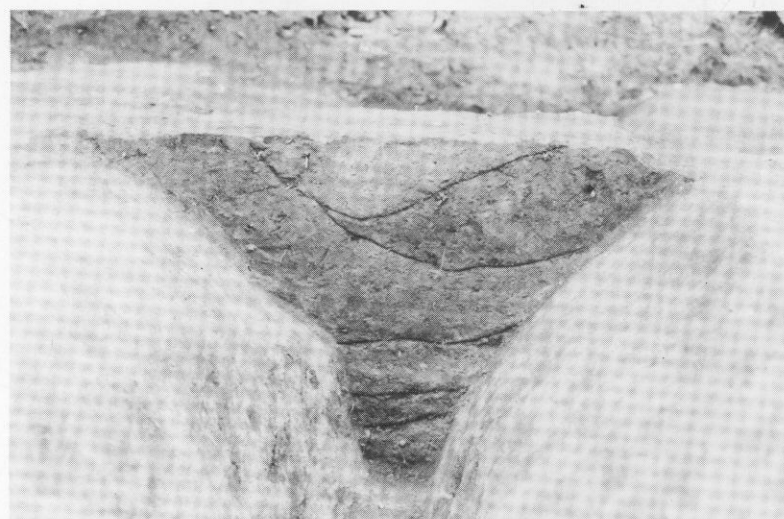
上の浦第1号墳周溝（南より）



第1号土墳（東より）



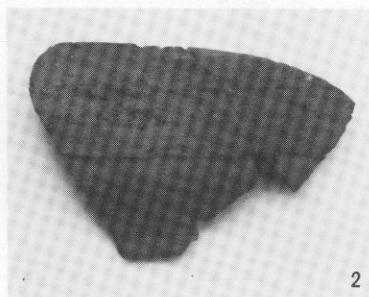
周溝墓周溝断面（南側）



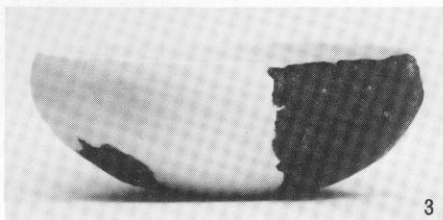
周溝墓周溝断面（西側）



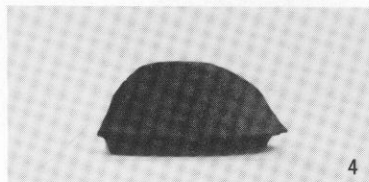
1



2



3

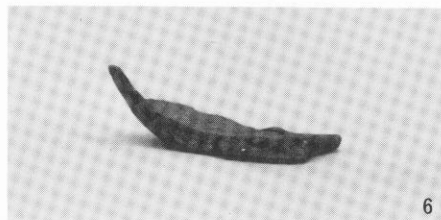


4

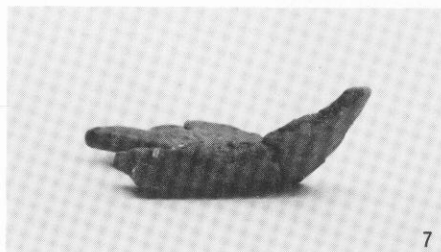
1 ~ 4
上の浦1号墳
出土遺物



5



6



7

5 ~ 7
周溝墓
出土遺物



8

8 表採土鍋

上の浦遺跡

筑紫野市文化財調査報告書
第 14 集

昭和 61 年 3 月 31 日

発行 筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市753の1

印刷 正光印刷株式会社
福岡市西区徳永877の1